

岐大通 2011



2011 J.League Division2 第3節 ザスパ草津戦

11/13(日) 13:00~ @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

いまは『勝ち方』まで求められない状況だけど、ね(笑) 岡山 1-2 岐阜【第3節】

まったくもう、何べんもおんなじこと書いてきてるんだけど、どうしてこうも劇的な勝ち方ばかりしやがるかなあ(苦笑) まあ、たったの6回しか勝ってないんだけど。そのうち、通常の時間内の得点で勝ったのは2回。でもって、ホーム水戸戦は、89分に失点し、終了直前にはあわや同点ゴールという状況があったから、アディショナルタイム関係なしに勝ったのはたった一度。アウェイ栃木戦だけってことになる。そりゃあ、勝ってくれるんならどんな勝ち方でイけれどもさ。

それでも、その要因は前半の失点が1点ですんだこと。特に開始2分のシュートをゴローが止めてくれたのがデカイ! 北九州戦では触れたのに失点してしまったのが、この日はビッグ・セーブから始まったこと。それが、ゴローを乗せたのかもしれない。その後も前半だけで2本防いでくれたし、後半はゴール正面のFKを始めピンチを未然にシャットアウト。マン・オブ・ザ・マッチは押谷に持ってかれたけど、もう十二分に勝利に貢献してくれた。失点の場面は、あれはもうノーチャンス。どう見たってゴローの責任ではないよね? 意図的かどうかはわからないが、岡山DFからのクサビのパスがスルーされた時、最終ラインなのに左右に首を振って周りを確認してちゃダメだろ? >野垣内。キミの後ろに誰かがいるわけじゃないか(苦笑) ボールが自分の横を抜けた時点で反応してほしかったよ……。おまけに、得点した選手はフリー。これもよく見るケースとはいえ、あの選手にはなんとか食いつき、せめてフリーで撃たせないようにしてもらえませんか? >20番。それでも、失点前の地主園はホント惜しかったな。トラップがもう少しコントロール出来てたらあったと思うよ>J初ゴール。そして、地主園にパスを出した新井もすばらしい。鳥栖戦での優大へのソレより長いループ・パス。決まっていたらお祭りだったかもね。試合の流れもつかめたかもしれない。

そんなこんなでアタフタした前半だったけど、ピッチ内と同様にアタフタというか残念だったのが岐阜側のスタンド。キックオフからの流れはもちろん、前節までの成績もあってか、コールやチャントの合間、あるいはそれらに混ざって岐阜の選手に対する指示やヤジが飛んでいた。確かに、歯痒いやら情けないやら不甲斐ないやら(苦笑)の場面は多いし、一刻でも早く追いつき追い越せという気持ちはわかるが、試合の結果は前後半を戦った後には出てこない。サボが、応援に来たはずの者が選手をアゲなきゃ誰がアゲるのかな? サッカーは、他のスポーツと比べて極端に得点が入らないんで余計に焦れるんだけれども、最後まで信じて応援するより仕方ないから。90分通してプレスするなんてできっこない。得点したら、とりあえず引いて様子を見る。そんな相手には、じっくりボールを回してスキを伺う。前半の10分やそこらで失点したって、焦る必要は何もない。ましてや、実際にプレーしていない者が焦っても何もできないでしょ。逆に、「まだ時間はある。」「大丈夫だから。」と勇気づけてやりたいよね。そんな感じでハーフタイムが終わり、どうなるのかな? と考えてたところでコール・リーダーの音が響く。「皆さんの気持ちはわかります。でも、まだ後半があるし、前半もそれほど悪かったわけじゃない。だから、皆さんの気持ちを込めたコールやチャントを出していきましょう。信じてください。もし、それが足りないと思われるんなら、前半同様言ってもらってもかまいません。今は、その声を応援に使いませんか? お願いします!」正確じゃないけど、だいたいこんな内容。

正直に書く。シビれた。ちょっと泣いた。よし、逆転するゾって気になった。たぶん、それを聞いたみんながそう思ったんじゃないかな? もちろん、勝敗は応援する人数の多さでも、声援の大小でもないことはわかっている。あの逆転勝利は選手のガンバリがあつたもの。だけど、スタンドも最後まで勝利を信じて応援したから、押谷の決勝ゴールが決まった瞬間全員が爆発できた。あの感激を分かち合えた。しょせん、スタンドからなんて、選手を信じて勝利を祈って声援を送ることしかできやしない。言いたいことは、選手にだって、スタッフにだって、もちろん、フロントにだって、それこそ山ほどあるし、言わなきゃいけないと思う。そして、それは応援することと同時にやっていかなきゃいけないことで、その二つが矛盾するわけではない。当然、勝つる時でも言わなきゃいけないことは言わなきゃいけない。ただ、少なくとも試合中は勝利を信じて応援するしかないと思う。だって、岐阜を応援する人なら、誰だって岐阜の勝利が見たいでしょ? だから、今日もいっしょに最後まで応援しようじゃないですか! その先に、きっとイイことありますって!! (ぐん、)

【編集部より一言】

11/27のホーム最終戦号では毎年恒例の企画を行います。

編集担当の吉田铸造です。

11/27日発行予定の『岐大通』では、ホーム最終戦号恒例の今シーズンのベストゴール/ベストゲーム/MPを募集します。あまり“対象”がないのは承知しておりますが、そこをなんとか(苦笑)。また、これも恒例の「今年の、そして来年のFC岐阜へ」もご投稿をお願い致します。(吉田铸造)

today's guest

ザスパ草津

2010 J2 12位

J2通算対戦成績 : 3勝 1分 5敗

2011成績

第06節 11/10/19 草津 4-2 岐阜

2010成績

第10節 10/05/02 岐阜 2-1 草津

第26節 10/09/19 草津 2-1 岐阜

2011J2 順位表 第3節 変則

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から視点)

1	FC東京	68p	+39	58	19	A	H
2	鳥栖	64p	+32	59	27	A	H
3	徳島	59p	+15	48	33	H	A
4	札幌	59p	+13	42	29	H	A
5	東京V	52p	+23	64	41	A	H
6	千葉	52p	+7	43	36	A	H
7	北九州	51p	-3	37	40	A	H
8	栃木	50p	+8	41	33	H	A
9	京都	49p	+2	43	41	H	A
10	熊本	49p	-9	30	39	A	H
11	大分	46p	-1	37	38	H	A
12	湘南	45p	+2	41	39	H	A
13	草津	45p	-7	42	49	A	H
14	愛媛	40p	-10	36	46	A	H
15	水戸	39p	-7	36	43	H	A
16	富山	39p	-14	33	47	A	H
17	岡山	39p	-18	38	56	H	A
18	横浜FC	32p	-17	33	50	A	H
19	鳥取	31p	-15	32	47	A	H
20	岐阜	23p	-40	36	76	---	---

次回 HomeGame

第3節【ホーム最終戦】
カターレ富山戦

11/27(日) 16:30
@岐阜メモリアル
センター長良川競技場

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

FC岐阜大好き通信(岐大通)
11/13号
編集発行:『岐大通』製作委員会
今号の製作担当: ささたく & 吉田铸造

編集子より
ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンも「全ホームゲーム」での発行を目標にしますので、よろしくお願致します。

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休: 日曜日(今日はお休みです)



ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

(岡山戦の続きです)

あーもう、どうして、いつもロスタイムでの得点で試合が決まるんだろう？(笑)。ひょっとしたら自分の感覚だけかもと思って記録を調べてみたら、今季の貴重な(苦笑)6勝のうち、4勝がロスタイムでの決勝点、しかも全試合が1点差での勝利だった。90分以内で決勝点が決まっているのは、4/30の水戸戦(後半17分)と、9/28の栃木戦(後半21分)と、それでも後半での得点だった。そりゃあ、いつもいつもいつもいつも(4回分言ってみましたw)、試合の展開にハラハラライライしつつ、ロスタイムで決勝点が決まって大喜び&大崩れしている気にもなるよね、っていつか事実だった(苦笑)。

そして、今節はいつもより更にハラハラライライさせられた試合展開だった。まずスタメンからして、右SBが前節の鳥栖戦で頭部を負傷し、今節も頭にバンテージを巻いた明弘、左SBは、村上が負傷したのでトップ下から戻ってしまった和範がそのまま。試合中の負傷では、ベンチ要員も足りないからという理由もよく分かるが、新しい試合でのスタメンでの起用なんだから、もう少し考えたらって思ったし、他に使える選手は本当にいないのか...と頭を抱えてしまったのは僕だけだろうか。

そして、今節の前半は更に頭を抱えたいくなるような酷い出来だった。いつもより更に、走れない、ボールが奪えない、パスが繋がらない、そして戦う気持ちを感じられない。中盤で激しく相手に寄せていくこともなく、いたずらにバックパスでボールを回し、ロングボールは相手に奪われ、攻められるような状況だった。前半13分には、DFラインの裏に抜けたボールを左からのクロスで上げられ、これをゴール前中央で完全にどフリーになっていた相手MF妹尾にヘディングで決められて先制点を許す、いつも以上に惨い失点シーンを見せられた。ライナー性のクロスでなく、ふわりと上がったボールで、相手より人数もいたのに、というかゴール前にいた岡山の選手は妹尾だけなのに、どうして誰もマークしてないのか?と、信じられないような失点シーンだった。その後、ほぼ一方的に岡山ペースで試合は進む。GK川浪のファインセーブがなければ、追加点を許していた。あまりの試合つぱりに、前半だというのに岐阜サボから選手に怒号が飛び始末(溜息)。せっかく岡山まで来たのに、こりゃ今季最悪の試合を見せられるのか...とまで思わされた前半だった。

だけど、「後半このままじゃ終われない...」という岐阜サボの気迫が伝わったと言うべきか、あれだけ悪いとウチでも後半修正してくるよね...と言うべきか(苦笑)、後半はボランチを三田から橋本に交替させて修正すると、これが効果を発揮した。徐々に中盤のボール争いでも奪えるようになり、前線でもボールが収まるようになってくる。そして後半08分、左サイドで嶋田がこぼれ球を拾い、クロスを上げると、ゴール前に走り込んで来た押谷がDFを背負いながらボールを真上に跳ね上げ、ボレー一閃、同点ゴール!!!...というのが、現地で見えていた時の僕の視点。岡山DFに囲まれていて、よく見えなかった(苦笑)。録画で確認すると、「DFに身体を寄せられながら、左足でボールを真上に跳ね上げ、身体を反転させてマークを一瞬外すと、右足でジャンピングボレー一閃、同点ゴール!!!!」という...そりゃ素晴らしいゴールだった。スカパー!の今季ベストゴール選出も納得のスーパーゴール!僕は、2009年の押谷のJ初ゴール(これもジャンピングボレーで岐阜サボの度肝を抜いた)を思い出した。

その後、試合は一進一退の攻防。何度も危ないシーンを作られるが、最後は守備陣がブロックしたり、あるいはGK川浪のファインセーブで失点を許さずにいると...前半の岡山の優勢はハイペースだったのかな?徐々に足が止まってきたように感じた。しかし、こちらも攻撃が最後まで繋がらず、決定機はやってこない。イライラハラハラしながら、声を張り上げる岐阜サボ。後半終盤は相手のセットプレーを跳ね返す展開で、このままだと...と焦りを感じ始めた後半ロスタイム、相手のFKからのボールを掴んだ川浪が、岡山の切り替えの遅さについて素早く押谷にボールをフィードすると、押谷は自陣左サイドから敵ゴールに突進(ちなみに僕は「いけー!!」と叫び声を上げたのは言うまでもないw)。嶋田、染矢、佐藤の3選手が上手く散って岡山DF陣の気を逸らしたこともあり、押谷はそのままゴール中央に突貫、狙い澄ましたロングシュートはゴールに吸い込まれ、逆転!!雪崩れる岐阜サボ。そして試合終了。貴重な勝ち点3を手にすることが出来た。いやー、それにしても、勝ったから良かったものの、前半はホントどうなることかと...前半終了時と試合終了時の岐阜サボ(僕を含む)の表情は対照的だったし、岡山に追加点を決められていたら、その時点で試合は終わっていたかもしれない。「肉を斬らせて骨を断つ」ってのは日本古来からの戦法かもしれないけれど、斬らせ過ぎだっば!(苦笑)その点でも、今節の「隠れたMV

P」はGK川浪だと思う。これまで(彼だけの責任ではないのだけれど)出場した試合での大量失点に、川浪自身も期するものがあっただろう。また、試合終了時の挨拶では、彼は僕らの前でユニフォームをまくり上げた。そこにはマジックで「21(直前に大怪我をしたGK村尾の背番号)」と書いてあって、ニコリと笑ってくれた...うーん、気持ちを見せてくれる選手は、ついつい思い入れが深くなってしまふよなあ... (笑)。

嬉しい勝利は掴んだが、しかし、「相手が岡山だったから」という考え方も出来る勝ち方だったのも事実。あと残り4戦、反省点はきちんと修正して、残りを全勝するチームの勢いを、最後の意地を見せてほしい。(ささたく)

【ユース】清水ユース相手に奮闘するも惜敗

11月6日(日)に我らがFC岐阜ユースU-18(以下、岐阜ユース)はJユースカップ予選リーグの試合で清水ユースと対戦しました。既に2敗していた岐阜ユースは試合開始時点で決勝トーナメント進出の可能性は無くなっていましたが、初勝利、初勝ち点を目指して戦います。

対戦する清水エスパルスユース(以下、清水ユース)はユース・高校世代のトップリーグであるプレミアEASTで現在3位の超強豪チーム。そして来年のトップ入りが既に発表されている選手もこの日の試合に出場していました。

清水ボールでキックオフ。序盤は清水の猛攻に岐阜が必死に守る展開で、殆どハーフコートマッチ状態。やっぱり厳しいな~と見ていましたが、暫くすると岐阜ユースの選手も固さが取れてきたのか動きが良くなってきます。そして前半14分カウンターで抜け出した種田選手がGKとの1対1を冷静に決めて先取点!ため息が出る清水側観客を横目に岐阜側観客は歓喜&ハイタッチの嵐。そしてその興奮も覚めやらぬ前半16分に相手陣内で得たFKのこぼれ球を牧選手が押し込んで追加点!岐阜側観客は狂喜乱舞!清水ユースから2点のリードを得ました。しかしそこはプレミアEASTで強豪相手に結果を出している清水ユース。サイドからクロスを上げるのが本当に上手く、前半29分に1点返されてしまいます。それでも2対1のリードで前半を終了した岐阜ユースの選手に対して岐阜側観客から大きな拍手が贈られます。

後半も一進一退の攻防が続きます。フィジカル・技量に勝る相手選手に対して懸命にチェイスをかけ、ボールを奪取しカウンターをかける。それを繰り返す岐阜ユースの選手がとっても頼もしく思えました。ただ清水ユースが後半20分に同点に追いつくと、29分・40分にも追加点を取られて2対4にされてしまいます。この辺りはプレミアリーグと言う高いレベルで戦っている地力が出てきたんだと思われま。アディショナルタイムに丹羽選手が1点返して一矢報いますが、直後に逆に清水ユースに1点奪われて万事休す。結果3対5で敗れました。

試合終了後は観客席から両チームの選手に対して惜しめない拍手が贈られました。そして清水サボからは自チームの選手を称える前に岐阜コールをして頂き、とても嬉しかったです。(ウチからコールを返さなかったのは個人的に残念でしたが.....)

岐阜ユースの今年の公式戦は全て終了しました。3年生のみんな、3年間お疲れ様でした。君達は見ているホントに頼もしくなりました。残念ながらJユースカップでは勝点を得る事が出来ませんでした。一昨年のボコボコに負けていた姿からは想像も出来ないくらいに成長してくれました。君達が築いてきたチームの土台はきっと下級生達が受け継いでくれるでしょう。1・2年生のみんな、来年は先輩達が叶えられなかったG1昇格とJユースカップの決勝トーナメント進出を目指しましょう!

これからもうずっと応援しているよ。FORZA!FC岐阜ユースU-18!!

(シュナ)



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

勝ち点1を獲ったのか、勝ち点2を失ったのか。どっちだろう。

岐阜4-4鳥栖【第3節】

本当は、試合終了と同時にダッシュで席を離れたかったけれど、選手の挨拶が終わるまでガマンした。いったい、どんな顔して、このか見たかったの。少し天邪鬼かもしれないけれど、拍手をする気にはなれなかった。「J1昇格」が手を伸ばせば届く位置にいる2位の鳥栖と接戦を演じてのドロー。それでも、今季の岐阜らしからぬ得点経過（PKをもらったばかりか、アディショナルタイムの追加点で2点差をつける）で後半に臨んだにもかかわらず、あつという間に貯金を吐き出してしまう歯痒さ。しかも、苦し紛れのクリアが相手の連携ミスから勝ち越し点につながったのに、同じ選手に得点を許してしまう体たらく。確かに、豊田選手は得点ランキングのトップを走る好調なストライカーだが、いずれもフリーにしてしまっているのはなんでだろう？

それでも、この日は執念を見せてくれて三度勝ち越し。それも、押谷の気迫のドリブル突破から優大が泥臭くモカラダで押し込むという、「もう、そんなん決めちゃったら勝つかないだろうっ！」という状況だったのに、終了直前の90分に訪れた悪夢は、これまた何度も繰り返されたゴール前混戦からの失点。結果はドローだったけれど、鳥栖の気迫と執念が上回ったということかな？岐阜にとっては、珍しく（苦笑）「負けに等しい引き分け」となってしまった。鳥栖にとっても、昇格に向けて負けられない試合だったに違いないが、ウチにとっても「最下位脱出」に向けて負けられない戦いだったはず。自分たちのやるべきこと、抑えるべき選手などを全員で確認して後半を迎えてほしかった。最下位脱出には困難を極める状況だけど、だからといって勝利を諦めていいはずがない。たとえ、何があろうと最終戦終了の笛を聞くまで懸命に戦い抜いてほしい。でも、間違わないでほしいのは「戦い抜き」というのは、ただガムシャラに走り回ればいいワケではなくて、引くべき時、抑える時はガマンすること。耐えることでもあるんだよ。90分間、前からプレスなんてできないんだから。苦言ばかり、岐阜的に言えば「おぞい」ことばかり書いてきたけど、もちろん悪いことだけじゃなかった。2点目の新井のパスは見事だったし、PKを誘った正吾のシュートも、押谷のドリブルからのミドルも、優大の執念のゴールも興奮した。前半途中までの和範も効いていた。返す返すも、村上の負傷が残念だった。今は、一日も早いケガからの復帰を祈ります。（ぐん、）

10月末、しかも雨に降られて身体が冷え込むナイトゲーム。相手はここまで13戦負け無しで現在2位と絶好調の鳥栖。ストライカーの豊田は16得点で、現時点でのJ2の得点王。試合が始まる前から負けるつもりは毛頭無いけれど、厳しい相手であることは間違いない。「これで試合内容まで寒いと、マジで風邪ひくな...」なんて笑えない冗談を言いながら、スタメン発表は...菅がトップ下！（驚）で、急にテンションが上がった僕（苦笑）。さて..結果として、鳥栖相手に4-4のドローという結果に終わった訳だけど...これを「どう捉えるか」は人それぞれだろう。

「鳥栖相手に負けなかった」「勝てなかった」あるいは「4得点も取れた」「4失点も奪われた」...まあ、これだけ両チームに点数が入った、よく言われるところの「馬鹿試合（苦笑）」なのだから、いろいろな見方があって当然だと思う。

僕個人としては、「菅のトップ下起用と、村上の負傷交替がキーポイント」だった試合だと思った。菅のトップ下は、2009年シーズン、ピッチ全体を縦横無尽に走り回る彼の姿を見ている僕には「やっとな...」という思い入れが強かったのかもしれないけれど、やはり効いていたように感じた。システムを4-4-2から4-2-3-1に変更したのも功を奏してのことだと思うが、優勝争いをしている鳥栖相手に、中盤のボールの奪い合いでも負けていなかった。こんな序盤の展開は、久しぶりだったんじゃないのかな？（苦笑）前半13分のPKを獲得した嶋田のミドルシュートも、新井からの浮き球を菅がポストプレーで渡したボールだった。ところが前半26分に、左SBに入っていた村上が負傷。すると、替わりに押谷を投入して、菅は左SBに戻ってしまった。不安に感じたが、なんとか試合は互角のまま時間が進み、なんとロスタイム、エアポケットのように空いたDFラインを突いて西川がボールを受け、撃ったシュートはゴールを揺らして追加点！そして、前半終了。

思わぬ試合展開にスタジアムは沸いたが、僕は嬉しい反面、不安を隠せなかった。ウチが前半リードして終わると、相手は必ず修正してくるし、ウチはその修正に対応できずに逆転負けするパターンが多いのを、いままで痛々しいほど経験しているからだった（苦笑）。

実際、鳥栖はキチンと修正してきた。動きが鈍かった前半とは見違えるように激しい動きで、後半キックオフ直後からボールに襲

いかかってきた。そして、前半は菅が埋めていた中盤のスペースを空けられて使われたように感じた。後半07分には、左からのクロスを右サイドでフリーだった豊田に押し込まれ、まず1失点。後半13分には、今度は左サイドからのボールを右サイドでフリーだった豊田に決められ、2失点目。どちらもクリアミスのボールを拾われてしまった感はあるが、でも、今期のJ2得点王をゴール前でフリーにさせりゃ、そりゃシュート撃ってくるだろうしゴールも決めてくるだろうってモノだ。相変わらず、ゴール前でボールウォッチャーになってる選手が。集中力が欠けているのか、体力が足りないのか...この守備の傾向は、今期は何ともならないのかなあ...（溜息）。

ところが今節は、それでは終わらなかった。後半21分に、押谷が相手DFの連携ミスを見逃さずに敵陣でボールを奪うと、見事なミドルシュートで追加点！鳥栖としては致命的なミスだったし、これで流れはウチにくる...と思った僕が甘かった（苦笑）。後半31分に、CKから豊田にヘッドを決められ、3失点目&ハットトリックを献上。再び追いつかれてしまう。これは厳しいかも...と思った後半82分には、今度は押谷からのクロスを優大が押し込み、4点目！流石に4点目だし、3度リードしたんだし、この時間帯なら、きっちり守りきれば...と思った僕は、やはり甘かった（苦笑）。後半90分に、ゴール前の混戦でのこぼれ球を決められ、4失点目&みたび追いつかれて、試合終了。いろいろな感情が浮かんできたけれど、僕には、優勝争いをしていて13戦無敗のチームに苦渋を舐めさせ、最下位のチームとして意地を見せる絶好の機会をみすみす失ってしまったように感じて、悔しいという気持ちが一番強かった。おかげで鳥栖には、今期の最多失点記録は更新させられたけれど（笑）、14戦無敗（注：現時点では15戦無敗）記録、豊田にはJ2得点王に大きく近づく3得点、そして貴重な勝ち点1を献上してしまった。

試合結果に「たれば」は禁物。でも、やはり今節に関しては、村上が負傷交替しなかったら？と、つい考えてしまう。あるいは、和範以外の誰かを左SBに入れる手はなかったのか？とも考えてしまう。あるいは、優大が勝ち越しの4点目を入れた直後、GKと1対1のチャンスを迎えた押谷のロングシュートが決まっていたら...まあ、こういう試合を勝ち切れないから、今期のウチは最下位独占とか最多失点とかになってるんだって分かってはいるんだけれど（溜息）。

攻撃陣は良かったとして、守備陣の立て直しが急務...と言い続けて何ヶ月になるんだろうか（大苦笑）。いつの間にか、残り試合もあとわずかになってしまったけれど、ほとんど代わり映えのない選手で戦っているよなあ...（溜息）。ともあれ、残りの試合、選手たちには気持ちだけは相手に負けずに戦い抜いてほしい。（ささたく）

すごくむずかしい試合だった。「どう受け取ったらいいのかわからない」という意味で。「勝てた」というよりは、展開としては「勝たないといけない」試合で、そういう試合を負け続けているからこそこのいまの順位であって、向こうは昇格を向う2位でこちらはぶっちぎり最下位という現状からしたら「よくやった」試合なのかもしれないけど、でも同じ「J2」というカテゴリーにいるのだから格上/格下という概念はないはずで、だからこの試合に対して「よくやった」というのは自分たちが「格下」だと言っているような気がして、でも、「勝ちたかった~」というのは、間違いない。

2-0と岐阜リードで迎えた後半のキックオフで鳥栖が怒涛の大プレスを仕掛けて来た時に「ああ、やっぱりユン監督は『この試合を勝つ』ための仕掛けをしてきた」と思った。ウチの失点はCBはどちらも1歩めが動かなくてその場でクリアしようとして失敗したもんなんだけど、怒りとかは湧いて来なかった。だって5連戦のラストだから疲労もピークだろうし、それが出来ないからの最下位なんだもん。

だから、残念だけど同点までは想定内。実は逆転までも想定していた（苦笑）。でも、これまで「シュート数は多いけど“得点の二オイ”は薄くて、それで少ないチャンスを決められて負ける」のを何度も何度も何度も観ているから、この試合の「少ないチャンスをモノにしていく」展開は予想外だった。でも、結局は残り数分が持ちこたえられないいつもの岐阜でドローに。壮絶な点の獲りあいの末の勝ち点1。でも、リーグ戦では6試合で失点24。この6試合で勝ち点を4も得ているのが信じられない守備の惨状。この試合まででトータル75失点。岐阜の次に失点が多いのは岡山の54失点。21も違う。これでは勝てるモノも勝てない。（吉田鑄造）